

東北教区報 2021年1月号

あけぼの

発行所

日本聖公会 東北教区
仙台市青葉区国分町2-13-15

TEL 022-223-2349

FAX 022-223-2387

URL <http://nskk-tohoku.com/>

「今年のクリスマスはやめにしませんか」そんな提案を教会役員会にぶつけたのは、私が聖ペテロ伝道所に勤務していた時、近くのプロテスティント教会に勤務していた若い牧師さんでした。当然の如くに「何をいっているのだ」と役員さんたちは反発します。この牧師さん、少し言葉が足りなかつたようで、いいたかったのは降誕日の礼拝をしないということではなく「例年のよう派手な飾りつけや、ご馳走を囲んだパーティーをやめましょう」ということだったようです。

イエス様は、身重のマリアさんとヨセフさんが住民登録をするためにナザレからベツレヘムに向かう途中で、宿も取れない中で、貧しい家畜小屋でお生まれになりました。まさに「人みな眠りて、知らぬまにぞ」(聖歌第85番2節)と歌われている通りの状況でした。

最近知つて驚いたのですが、

クリスマス メッセージ サイレントナイト

司祭 ステパノ 涌井 康福



「今年のクリスマスはやめにしませんか」そんな提案を教会役員会にぶつけたのは、私が聖ペテロ伝道所に勤務していた時、近くのプロテスティント教会に勤務していた若い牧師さんでした。当然の如くに「何をいっているのだ」と役員さんたちは反発します。この牧師さん、少し言葉が足りなかつたようで、いいたかったのは降誕日の礼拝をしないということではなく「例年のよう派手な飾りつけや、ご馳走を囲んだパーティーをやめましょう」ということだったようです。

イエス様は、身重のマリアさんとヨセフさんが住民登録をするためにナザレからベツレヘムに向かう途中で、宿も取れない中で、貧しい家畜小屋でお生まれになりました。まさに「人みな眠りて、知らぬまにぞ」(聖歌第85番2節)と歌われている通りの状況でした。

親とてもゆっくりと横たわることができなかつたことでしょう。想像するだけで寂しさがこみ上げてきます。

多くの人たちが「クリスマス」と聞いて思い浮かべる光景とは、まったく違ったみ子の降誕の姿がそこにはあり

ました。わたしたちは降誕日が12月なのは定かではあります。でも夜は寒えたことでしょう。暗くて寒くて静まり返った闇の中、落ち着いて赤子を寝かせることもかなはず、両親ともに私たちもみ子と共に存在しているのです。クリスマスには毎年繰り返す「祭り」としての意味もあるでしょう。何度もくり返してきたクリスマスですが、同時に毎年私たちにはみ子イエスの誕生の瞬間に招かれているということを思ふのです。

そう考えると、礼拝が終わる「さー、次行つてみよう!」とパーティーに切り替えるのは、なんだか惜しい気がしてしまいます。もちろんそこに宣教的な意味もあるわけですから、単純には否定できません。

そして今年は聖家族がヘロデからの迫害を逃れたエジプト逃避行、み子のための幼き殉教者、東方からの訪問者などにも思いを馳せ、降誕の出来事を默想する中で、豊かな恵みが与えられそうです。

イスラエルにも雪の積もる山があり、スキー場もあるのだとか。イエス様のご降誕が本当に12月なのは定かではありません。必要最低限の光しか用いられないのは、雰囲気作りなどではなく、きっと2千年前の「その場」にわたしたちも繋がれるためではないでしょうか。神の示された「時」に確かに私たちもみ子と共に存在しているのです。クリスマスには毎年繰り返す「祭り」としての意味もあるでしょう。何度もくり返してきたクリスマスですが、同時に毎年私たちにはみ子イエスの誕生の瞬間に招かれているということを思ふのです。

スマスは千載一遇の時です。祝会をどうするかと意見を交わすまでもなく、結果は見えてしまっています。残念といふべき通りですが、礼拝が終わって「残念だね」とか「さみしいね」といつて感覚症を呪つて帰るのではなく、まさに今年の降誕節は「静かな夜・サイレントナイト」に思ふを寄せてみなさいという、

神様からの恵みの時なのだと捉えられないでしょうか。どんな時でも、み子のご降誕は救いの時、恵みの時であることに変わりはないのです。

いことですが、たまにはみ子のご降誕の場に居合わせた余地も良いのではと思います。冒頭で紹介した牧師さんにも、そんな思いがあつたのかもしれません。前日の夕の礼拝(イヴ)の中で、その時の場面を垣間見ているのかもしれません。必要最低限の光しか用いられないのは、雰囲気作りなどではなく、きっと2千年前の「その場」にわたしたちも繋がれるためではないでしょうか。神の示された「時」に確かに私たちもみ子と共に存在しているのです。クリスマスには毎年繰り返す「祭り」としての意味もあるでしょう。何度もくり返してきたクリスマスですが、同時に毎年私たちにはみ子イエスの誕生の瞬間に招かれているということを思ふのです。

スマスは千載一遇の時です。祝会をどうするかと意見を交わすまでもなく、結果は見えてしまっています。残念といふべき通りですが、礼拝が終わって「残念だね」とか「さみしいね」といつて感覚症を呪つて帰るのではなく、まさに今年の降誕節は「静かな夜・サイレントナイト」に思ふを寄せてみなさいという、

神様からの恵みの時なのだと捉えられないでしょうか。どんな時でも、み子のご降誕は救いの時、恵みの時であることに変わりはないのです。

そして今年は聖家族がヘロデからの迫害を逃れたエジプト逃避行、み子のための幼き殉教者、東方からの訪問者などにも思いを馳せ、降誕の出来事を默想する中で、豊かな恵みが与えられそうです。

いことですが、たまにはみ子のご降誕の場に居合わせた余地も良いのではと思います。冒頭で紹介した牧師さんにも、そんな思いがあつたのかもしれません。前日の夕の礼拝(イヴ)の中で、その時の場面を垣間見ているのかもしれません。必要最低限の光しか用いられないのは、雰囲気作りなどではなく、きっと2千年前の「その場」にわたしたちも繋がれるためではないでしょうか。神の示された「時」に確かに私たちもみ子と共に存在しているのです。クリスマスには毎年繰り返す「祭り」としての意味もあるでしょう。何度もくり返してきたクリスマスですが、同時に毎年私たちにはみ子イエスの誕生の瞬間に招かれているということを思ふのです。

スマスは千載一遇の時です。祝会をどうするかと意見を交わすまでもなく、結果は見えてしまっています。残念といふべき通りですが、礼拝が終わって「残念だね」とか「さみしいね」といつて感覚症を呪つて帰るのではなく、まさに今年の降誕節は「静かな夜・サイレントナイト」に思ふを寄せてみなさいという、

神様からの恵みの時なのだと捉えられないでしょうか。どんな時でも、み子のご降誕は救いの時、恵みの時であることに変わりはないのです。

そして今年は聖家族がヘロデからの迫害を逃れたエジプト逃避行、み子のための幼き殉教者、東方からの訪問者などにも思いを馳せ、降誕の出来事を默想する中で、豊かな恵みが与えられそうです。

日本聖公会東北教区

第103(定期)教区会開催

11月23日(月)・盛岡

第103(定期)教区会が
11月23日(月)午前9時から午
後5時にかけて、盛岡聖公会
礼拝堂並びにアートホテル盛
岡で開催されました。

新型コロナウイルス感染症
の影響を受けて、議事日程を
従来の2日間から1日に変更
し、会場も主教座聖堂・仙台
基督教会ではなく盛岡聖公会
礼拝堂で開会聖餐式を行い、
その後ホテルにて議事を行う
という、これまでとは全く
違った形での開催となりまし
た。

そのような異例の状況では
ありましたが、参加された聖
職議員並びに信徒代議員、書
記局、またホテルのスタッフ
の方々の協力もあり、「密にな
らない議場設営」と「しっかりと
とした検温・消毒体制」を
実現することができました。
そして1日という今までよ
りも短い日程ではありました



が、無事に予定していた全て
の議事を行うことができ、一
つの議案(第15号議案)を除
いて、全ての議案が可決され、
閉会することができました。

報告においては、新型コロ
ナウイルスの影響・その他さ
まざまな情勢もあって、思う
ように動くことができなかつ
たといった報告が、多くのグ
ループやプロジェクトからあ
りました。しかしながらそ

れらのもの、その他の「業務
組織及び業務分掌規程の一部
改正の追認」等は可決されま
した。これにより大小様々な
変更ではありますが、規則・
規程のより円滑な運用のため
に必要な議案が決議されまし
た。

「ヴァイアル山荘を解体し
改築する計画に賛同し推し進
めること」に関する議案にお
いては、十和田湖畔施設活用
グルーブから様々な資料を用
いた情熱的なプレゼンテー
ションが行われ、教区の大切
な賜物であるヴァイアル山荘
をこれからも活かしていくた
めに今必要なこと、将来的な
ヴィジョン等が提示され、こ
れからヴァイアル山荘改築し
ていくための、具体的な働き

中でも年末にプログラムを予
定しているグループや、We
b会議を駆使して議論を深め
る等工夫をしているグループ
など、各々が出来る限りの活
動をしていることも報告され
ました。

また議案においては、多く
の規則・規程に関するものが
提出されました。慶弔規程に
関する議案が1つ取り下げら
れたものの、その他の「業務
組織及び業務分掌規程の一部
改正の追認」等は可決されま
した。これにより大小様々な
変更ではありますが、規則・
規程のより円滑な運用のため
に必要な議案が決議されまし
た。

この教区会が、聖靈なる
神様のお導きのもと、共に祈
り、互いに聞き合い、意見を
分かち合うことを通して、こ
れからの東北教区の一致と平
安・進歩のための、豊かな恵
みの時となりますことを願つ
ています。

(編集部)

選挙結果

常置委員

赤坂有司(長・仙台基督教会)
司祭 長谷川清純

司祭 八木正言(書記)
司祭 津井康福

畠山秀文(弘前昇天教会)
坂水かよ(盛岡聖公会)

新型コロナウイルスと 教会の活動について

先にも述べましたが、今年
は2月の末あたりから、新型
コロナウイルス感染症の影響
が東北地方にも出始め、現在
は第3波ということで、なか
なか終息する様子を見せてい
ません。教区としても常置委
員会で協議の上、2月21日付
けで「新型コロナウイルス感
染症拡大に伴うご注意」を教
区内各教会にお送りして以来、
10月7日付けまでの7回にわ
たり、礼拝の持ち方などにつ
いてお願いをしてまいりまし

主教告示

主教 ヨハネ 吉田 雅人

本日、ここに東北教区第
103(定期)教区会を開催
できることを、主なる神様
に感謝いたします。またこの
教区会のためにお集まりくだ
さいました、聖職議員・信徒

ご高齢の方への訪問も、十分に行なうことができなくなりました。各教会の諸行事はもちろのこと、病床にある方や



した。

ことに礼拝に関して申しますと、仙台基督教をはじめ、他教区でも、司祭が執行する聖餐式のようすを動画で配信する、インターネット礼拝が行われました。この試みは多くの信徒の方の信仰生活の助けになつたと思われますが、一方でインターネット環境をお持ちでない方や、あっても使い方が今ひとつ分からぬ方にとつては、ある意味での格差を生むことになつてしまつたのかもしれません。もちろん、説教原稿をお一人おひとりに郵便で送つてくださった司祭もいらっしゃつたと聞いています。

ただ、この度の感染症では、信徒の皆さんがあつまつてお献げする公開の礼拝を2カ月あまりお休みするという、前代未聞の事態を経験することになりました。また、予定されていました教区のさまざまな計画や、各教会の諸行事はもちろのこと、病床にある方や

人事について

次に教役者的人事について報告いたします。今年の3

月末をもつて加藤博道主教様が定年退職を迎えられ、また39年間お働きくださつた中山茂司祭が、ご本人の強い願いにより横浜教区に転籍されました。そして先ほども皆さんと一緒にお祈りしましたが、5月20日には、思いもかけず影山博美司祭を、神様のみもとにお送りすることになりました。着任と同時に公開の礼拝が休止となり、訪問もままならない状況の中で、多くのストレスを感じておられたのではないかと思います。私もそばにいながら、十分な配慮ができなかつたことを心苦しく思います。またお連れ合いの実枝さまには、9月末までの実枝さまには、9月末まで教会を守つていただきました。お礼を申し上げますと共に、残された実枝さんのためにもお祈りくださいますよう、お願いいたします。

私たちの課題について

さて次に私たちの課題についてお話をさせていただきます。今年度の教区会には、慶弔議案と予算決算議案を除いて10つの議案が提出されていますが、その内、8つの議案は教区の諸規程の改正を求める議案です。これは教区の業務組織が再構成されたことにより、一昨年から規則・規程グループが取り組んでくださつたものです。今教区会で、この作業は一段落することになると思

います。このような事情で、主教座するところが、これからも教会に求められていると思します。

このような事情で、主教座するところが、これからも教会に求められていると思します。

アル山荘の改築計画についてです。詳細は議案審議の時の説明に委ねることとして、東北教区の多くの人々にとって思いで深いこの山荘を、より使いやすくし、私たちの心と体を癒し強めてくれる場所になることが期待されています。

私たちの課題という意味で、私は、昨年の教区会で可決していただいた、東北教区の「宣言方針—ミッション・ステートメント」について、もう一度触れさせていただきます。今年は新型コロナウイルス感染症のこともあって、実施することがなかなか難しかったかもしれません、教区内の全教会に、パネルに入れたミッショントークン・ステートメントのポスターと、信徒の皆さんのが普段から携帯できるカードを配らせていただきました。このステートメントの中でもたわれている、「ささげる」とと「ひらく」ことは、いずれも私たちが「イエスの宣教の御業に倣う」ことです。私たちがイエス様の生き方に倣って、自分自身を教会にお

もう一つの大きな議案は、建築100年を超えるヴァイ

いでになつた方に開いていく、教会を地域社会と人々に開き、寄り添っていくことに努めたいと思います。

日本聖公会全体の課題について

最後に、昨年の教区会でもお話ししたことですが、今年の10月に開かれました日本聖公会第65(定期)総会で、日本聖公会の宣教体制再編に向かっての、「宣教協働区と伝道教区制」を採用する議案が可決されました。このことにより、2020年10月30日より日本聖公会を3つの宣教協働区に分け、各々の宣教協働区で協働すること、また教区は教区会の決議と総会の承認によって教区主教を置かない伝道教区に移行することが可能になりました。

東北教区でも、このことにつきまして、昨年の教区会の主教告示でも申し上げました。が、総会で決議された最終案につきましては、現役教役者と信徒常置委員の研修会で説明しました。しかしながら信者の皆さんには、このことはほとんど知られていないのが実情だと思います。そのため、

2021年度は、日本聖公会の宣教体制再編に向けて、「宣教協働区と伝道教区制」についての研修の場が必要だと考えています。

また、主教会でも、このことについての主教会メッセージを出すことになり、今日、ご出席の皆様のお手許には、そのメッセージが配付されています。

ここでは、各教会に届く予定です。で、主日礼拝の時に信徒の皆さんに読み上げていただき、掲示していただきたいと思います。

ここでは、そのメッセージから3つの点について引用させていただきます。

1 宣教協働区

今回提起された「宣教協働区」という考え方とは、従来の教区という単位を超えて、共に支え合い、共に歩もうとするものです。そのためには各々の教区の持つ制度的・慣習的違いを分かち合い、理解し合い、よりよい方向を目指して行くことが期待されます。

再編成(教区の合併や設立)を立案、調整する働きが求められています。

2 伝道教区

これまでには各教区に必ず教区主教が置かれることになつてきましたが、今回の法規改正で規定された「伝道教区」の使命は、このようないを分かち合い、理解

し合うための調整機関です。またそれらを理解しあつた上で、宣教協働区内で求められる宣教活動や、助けを必要とする部分への牧会活動を具体化するための計画を策定する機関でもあります。これらに加えて協働委員会には教区の伝道教区のためにも宣教協働区内の諸教区が、共に支えあい、共に歩み、結束力をより強めるものとなるでしょう。

3 日本聖公会のこれから

今回の法規改正は、日本聖公会のこれまでの在り方を大きく変えるものです。教区の枠組みを超えて他の教区と課題を共有し、お恵みや喜びを分かち合い、重荷を担い合うこととなります。新たな枠組みですので、経験したことのない困難な事柄もあるでしょう。そのようなことも共に乗り越え、あるいはこの新しい枠組みをも前進させるこ



と、神様から与えられた宣教の業をしっかりと担い直すことができますように、主教会一同、心から願っております。

今日一日、限られた時間で通じて、神様から与えられた宣教の業をしっかりと担い直すことができますように、主教会一同、心から願っております。

今日は一日、限られた時間であります。私たちが神様とこの世、隣り人に仕えていく器とされますように、議論を尽くしたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

以上

幼稚園は教会に隣接しており、週一回、お礼拝堂にて越山司祭様と一緒にお祈りをしています。いつもは元気いっぱいの子どもたちですが、お

愛され、心の根っこを大きく広げ、すくすくと成長しております。

毎年秋に行われている、「教会・幼稚園合同バザー」では、一緒に案を出し合いおしゃべりをし、時には教会のベテランママ様方から子育てのアドバイスをいただきながら、和氣あいあいと同じ時間を過ごしております。教会の方が

八戸聖ルカ教会の皆様とともに歩み始めて、今年で118年を迎えた八戸幼稚園。「教会の皆様とのつながり」を大切にし、たくさん支えていただきながら、一つ一つ歴史を刻み歩んでまいりました。

園児は、いつの時代も変わりなく、笑顔いっぱい元気いっぱいに走りまわり、皆様から

八戸幼稚園
園長 島守 麻美



礼拝堂に入ると穏やかな表情に。子どもたちにとって大切な「心落ち着く、静かな時間」

を、お祈りを通して自然に感じているようです。お礼拝の時間は『神様とお話しする時間』と楽しみにし、司祭様のお話に耳を傾けています。月ごとに変わる聖歌も大好きで、遊びながらハミングで口ずさんだり、ロツク調にアレンジして歌つたりと、神様の存在をいつも身近に感じているようです。

毎年秋に行われている、「教会・幼稚園合同バザー」では、一緒に案を出し合いおしゃべりをし、時には教会のベテランママ様方から子育てのアドバイスをいただきながら、和氣あいあいと同じ時間を過ごしております。教会の方が

ス会ではあたたかいお言葉をご招待し、運動会ではたくさんの拍手と声援を、クリスマス会ではあたたかいお言葉をいただいたりと、日常から教会の皆様と子どもたちが家族

のように触れ合う時を過ごし、成長を一緒に喜んでくださっています。神様が与えてくれた感謝しておられます。これからも、園児や保護者のみなさ

さつたこのつながりに、心から感謝しております。これからも、園児や保護者のみなさ

まが安心して通えるように、教会の皆さんとともに歩んでいけたら幸いです。

たくさんの愛を受け、目には見えない心の根っこを伸ばしていく子たちの成長を、これからも応援していくたいと思います。幼児期に

島第1原子力発電所爆発事故による被害と、被災者の負われていた苦惱と苦労を忘れず、祈り、学び続けることが大切であり、すべてのいのちを尊び、被造物の本来の姿を守り、地球の生命を維持・再生するために努力することで、管区の原発問題プロジェクトと本プロジェクトは協働していく。

東日本大震災被災者支援プロジェクト報告

去る10月27日から29日、日

本聖公会第65(定期)総会がオンライン会議で開催され、特に当プロジェクトに深く関わる2議案が可決された。日

本聖公会「原発のない世界を求める国際協議会」声明に賛同する件と「原発のない世界を求める週間」設置の件です。後者は、日本聖公会「正義と平和委員会」と東北教区の聖職代議員・信徒代議員の4名連名で提出され、毎年、

10月23日、3月に中止となつてから8ヶ月振りで「広島お茶会」が再開されました。新地の方々13名はフルメンバー、ス

タッフ5名で嬉しい再会になりました。新型コロナウイルス感染者は新地では出ておりませんが、消毒、検温、マスク着用はすつかり定着しました。今は歌も歌えず、抹茶やケーキを頂くこともできませんが、消毒、検温、マスク着用はすつかり定着しました。今は歌も歌えず、抹茶やケーキを頂くこともできませんが、消毒、検温、マスク着用はすつかり定着しました。今日は歌も歌えず、抹茶や

ケーキを頂くこともできませんが、赤坂光子さん(仙台基督教会信徒)の軽妙なトークと、椅子に腰掛けてできる百歳体操を新地の方がリードしてくれて、あつという間の1時間でした。この百歳体操、結構筋肉が刺激されて悔れな

い体操です。メンバーの中にはこここの仲間同士で、毎日1万歩を歩いていると話された方がいました。来年で10年を迎える東日本大震災、『証言集』を刊行するにあたり広畠お茶会のメンバーの方々の貴重な体験を集めるための働きがが始まりました。

北から

南から

釜石神愛教会

釜石神愛幼稚園のクリスマス礼拝は12月19日に行う予定ですが、今年はコロナ禍の中、どのようなプログラムにすれば3密が避けられるのか未だ検討中です。親子遠足が中止となり、運動会も縮小となり、今まで以上に楽しみに待っているクリスマス礼拝・祝会ですので、保護者の皆さんと一緒にその日を迎えると願っています。可愛い子どもたちの姿は、大人に元気を与えてくれるのです。

(※11月中にご執筆頂きました。)

△改築計画が動き始めます
定期教区会において、ヴァイアル山荘改築計画に賛同し推し進めるることを承認する議案が決議されました。ヴァイアル主教から受け継ぎ、100年の間十和田湖畔の閑静な自然の中に祈りと交わりの場として多くの人を癒やし

続けてきた山荘が生まれ変わることになります。これまで長い間山荘の維持に努められてこられた皆様に感謝します。教区の祈りと癒やしの場として、ゆつたりと安心して休息できる「新しい山荘」にご期待ください。

大館聖パウロ教会

昨年「教区成立100周年記念誌」の為、「教会のあゆみ」について依頼がありました。有志で原稿を持ち寄り調べていくうちに、時代背景や知らなかつたことが多く、明治から今日まで大勢の聖職者のご苦労があつたこと、先輩信徒の熱い思いによって続いてきたことを改めて知りました。

先が見えず不安な時につれて、歴史を振り返り、神様が備えて下さる道を一歩ずつ歩んでいくことの大切さを感じました。

聖ペテロ伝道所

種子が風に乗って運ばれて来たのでしょうか。伝道所の庭に数年前から生育するアスピラガス。「食べられますか?」とよく聞かれますが、

食した人はまだいません。この植物、聖堂正面横のサツキの群の中に立つ十字架に寄り添うように、それでもまつ

すぐ天に向かつて生長します。そしてその柔らかそうな独特の緑の細枝が、初夏のサツキの花と調和して、聖ペテロ伝道所の特徴的な植物なのです。

鶴岡聖公会

鶴岡聖公会では、月一回の聖餐式を守っていますが、9月は6日(日)、10月は5日

(月)、11月は29日(日)と、管理牧師のスケジュールの都合で信徒の皆さんにとてもご不便をおかけしています。クリスマスの聖餐式は12月27日(日・降誕後第1主日)にお

献げして、主イエス様のご降誕をお祝いすることができます。小さな交わりですが、これからもご加祷をお願いいたしました。

議事
役割分掌について

(1)常置委員長の互選
主教が仮議長となり、第103(定期)教区会で選出

された常置委員で委員長を互選した結果、赤坂有司委員を選出、全員一致で決定した。

(2)書記の選出
書記を選出した結果、八木正言司祭を書記に選出、全員一致で決定した。

Mrs. Waller
1939年1月9日逝去

司祭ステパン・宮城俊彦
1995年1月13日逝去

司祭ペテロ・細貝岩夫
1985年1月17日逝去

司祭Charles H.Evans
1955年1月20日逝去

司祭アンデレ・青木伊八
1966年1月31日逝去

常置委員会報告
11/23開催

1月逝去者記念聖餐式
1月5日(火)午前10時~
於主教座聖堂

| | | | |
|----|------------|-------------|--------------------|
| 出席 | 臨席 吉田雅人 | 司祭 長谷川清純 | 執事 ヨハネ福島政美 |
| | 主教 吉田雅人 | 司祭 八木正言 | 司祭 アタナシウス佐々木康一郎 |
| | 司祭 涌井康福 | 司祭 坂水かよ | 司祭 サムエル秋山久之 |
| | 司祭 赤坂有司 | 司祭 畠山秀文 | 司祭 吉田雅人 |
| | 司祭 吉田雅人 | 司祭 吉田雅人 | 司祭 吉田雅人 |



永遠の平安

1月17日・秋田

マクレー 佐藤 敬
(10月22日・仙台)

モニカ 鎌田 良子
(10月29日・青森)

オーガスチン 野村 桂一
(11月17日・秋田)